

ほん・本・ブック (修練会)

公益財団法人豊島修練会 2016年5月29日号 (通算第7号)

今月は、どのコースも同じ本を話題にします。

蒔田晋治作・長谷川知子絵「教室はまちがうところだ」子どもの未来社 1620円

子どものほん (子ども、小学生&中学生)

「まちがうことをおそれちゃいけない。まちがったものをワラっちゃいけない。まちがった意見をまちがった答えを。ああじゃないかこうじゃないかと。みんな出し合い言い合うなかで。ほんとのものを見つけていくのだ。そうしてみんなで伸びていくのだ。」とある。



誰だって、自分の答えや意見は正しいと思って発言している。でも間違っていることがある。そういうときは、この詩のように、皆で、どうしたら正しくなるか話し合ってみよう。きっと学習が楽しくなるよ。それから、わからないことがあったらどんどん質問しようね。

大人の本 (パパ&ママ、ジジ&ババなど)



冒頭に「教室は間違うところだ。みんなどしどし手を上げて、まちがった意見を言おうじゃないか。まちがった答えを言おうじゃないか。」とある。

へそ曲りの私は、あえて、これに反論する。子どもは、自分の意見や答えが正しい(自信はないかもしれないが)と思ってノートに書いている。間違っただと分かっている子供はいない。答えが間違っていると思いながら発表する子供もいない。

だから、子どもには、自分の考えたことやしたことは正しいと思って発表しなさい。もし間違っていたら、「どうして間違いなのか?」「どうすれば正しくなるのか?」と考えれば、次から同じ間違いはなくなるよ。と、言うようにしたいものである。

むしろ、分からない時そのままにしておかないで、調べたり質問したりすることを奨励しましょう。「訊くは一時の恥、聞かざるは一生の恥」と言いますね。

学校の先生のブック (小学校・中学校の先生)

この詩は、中学校の教師だった著者、間違いを恐れるあまり発言しない中学生に「もっと自由に、間違いを恐れずに、間違いを気にせずに自分の意見や答えを発表してほしい」という願いを込めて、生徒へのメッセージとして作ったものだそうである。

この詩を読んだ小学校3年生の感想「間違いを恐れなくて、どしどし発表しようと思います(主旨要約)」を送ってもらって、著者が感動し、出版に至ったそうである。

教師は、子どもにとってティーチャー(指導者)であるとともにファシリター(進行役・調整者)でなければならない。第一に、課題に取り組んでいるときには、子どもの学習状況や反応を見取って、そのときその場で支援をすることが大切である。第二に、子どもが発表した時に恥ずかしい思いをさせないように、答えは間違っているでもきらりと光る部分を見つけ、認めることが重要だ。第三に、アクティブラーニングよろしくその間違いを、この詩のように、皆で話し合い学び合ってよくし、正しくしていくのである。



★備考★[成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」のほか「メッセージ」「Q&A」「ほん本ブック」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。ご利用ください。

